



令和4年度

2月 三大幼だより

江東区立第三大島幼稚園

園長 貞方 敦子

令和5年1月31日



三大幼 HPは
こちらから

また、会いたいなと思えること、人への信頼感を育むために

園長 貞方敦子

先日、東大島にあるブリッジスクールに通っているお子さんたちと交流をしました。今年度、3回目の交流です。1回目は、年長組のこどもたちが考えたお店屋さんに来てもらいました。2回目はポッチャを通しての交流、そして、3回目は、年長組の凧作りのサポートです。1回目、2回目に引き続き来てくれたブリッジスクールのお子さんもお喜び、嬉しく思いました。自分の呼ばれたい名前を名札に書き、年長組からも職員からも名前を覚えられ、「〇〇ちゃん」「〇〇くん」と声を掛けられていました。

今回の凧作りの様子を見ていて、繰り返し関わることで、関係性は変わるなあと思えました。関係性という言葉以外で表現するならば、相手に対する理解が深まり距離が縮まるということです。例えば、凧作りを教えるのが「自分は苦手」ということをぼそっと言いにくるお子さんがいました。しかし、苦手と言いつつも、「こういうふうにした方がもっとよく見えると思うんだよね。」「ここは危ないから見ておくよ。」などと、私に言ってきます。また、他のお子さんは、「僕がこれを配っておきます。」「手伝いますよ。」と周りの様子を見て自分にできることを自分から見つけて取り組んでいました。どのブリッジスクールのお子さんも、年長児と程よい距離感で関わっていました。年長児の様子を見たり、年長児の取組に根気強く関わっていたりしていました。私は、その姿に感心してしまいました。そのような時間を過ごしたものですから、年長児も名残惜しく、ブリッジスクールのお子さんが正門を出てしまってもずうっと姿が見えなくなるまで、テラスぞいを走り、「〇〇ちゃん！」と声を上げ、手を振っていました。

年長児にとって、「この人に会いたい！」「この人と遊びたい！」「この人と遊んで楽しかった」という気持ちをもてたのは、嬉しいことだなと思います。そして、そのような感情体験が人への信頼感や人が好きという気持ちを育むのではないかと思いました。ブリッジスクールのお子さんはお子さんで、帰りながら次のような感想を述べていたようです。「はじめは参加を渋ったりしたけど、参加してよかった。本当に交流っていいですね。楽しかった～！」「また、4回目もやりましょうよ！園長先生に頼んでくださいよ～」「園児たちが本当にかわいかったです。参加してよかった。楽しかった～」

直接関わる大切さを感じた時間です。今後もこどもたちが人との関わりや触れ合いができる機会を持てるようにしていきたいと思えます。4回目、実現したいですね。

今月の指導のポイント

年中りんご組

1月末から担任となり、毎日りんご組のこどもたちと触れ合いながら一緒に遊べるのが嬉しいです。一人一人に寄り添い、こどもたちが安心して過ごせるようにしていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

今月は、進級に向けて、年長児が今まで行っていた誕生会の司会や地域クリーンデーを引き継いでいきます。引き継ぎの中で年長児に憧れの気持ちを感じたり、親しみも気持ちをもったりしながら、活動に取り組んでいけるようにしたいと思います。また、新入園児の一日入園では、新入園児とペアになり一緒に遊ぶ予定です。その中で、幼稚園のことを教えてあげたり、関わり方を自分なりに考えたりできるようにしていきます。これらの活動を通して、進級への期待につなげていきたいと思えます。

年長にじ組

ミニコンサートに向けて、いろいろな楽器に触れ、演奏できるように取り組んでいきます。その中で、自分のやりたい楽器を考え、自分なりの力を発揮したり、みんなで音が揃う心地よさを感じたりできるようにしていきます。

好きな遊びの中では、自分のしたいことに取り組みながら、自分の思いを友達に伝えると共に、友達の思いを聞きながら一緒に遊びを進める楽しさを味わえるようにします。また、年中組に、誕生会の司会や地域クリーンデーなどを引き継ぎながら、自分たちが1年生になる自覚ももてるように過ごしていきたいと思えます。残りの園生活の中で、一人一人が自信をもって力を発揮したり、友達と互いのよさを認め合ったりしながら、遊びや生活を進めていくようにしていきます。